



## 授業実践（地誌学概説）

### VR 空間でバーチャルフィールドワークを実施しました。

開催日時：2024 年 12 月 3 日, 24 日, 2025 年 1 月 14 日, 21 日（火） 4 限

講 師：小倉拓郎 講師、山内啓之 立命館大学准教授、飯塚浩太郎 東京大学助教

アシスタント：学校教育学部 3 年 島崎遥名、小林勇介 研究補佐員

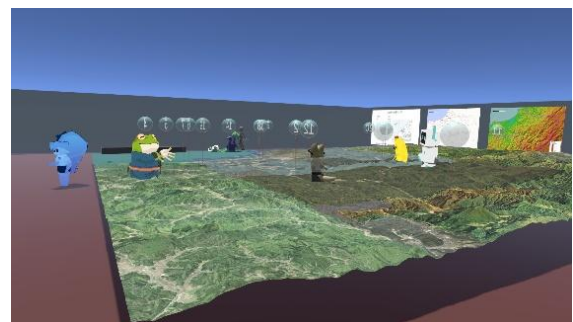
今年度、社会グループ 2 年対象科目「地誌学概説」ではバーチャルフィールドワークを導入しています。講師らがドローンや 360°カメラで撮影した写真をもとに 3D モデルを作成し、バーチャル空間内に表示させます。また、パネルや地図も 3D モデルの近くに配置し、バーチャル空間内で解説と観察の両方を実行できるような工夫を行いました。

受講者は実習前に対象地に関するオンデマンド講義を受講し、実習に向けて事前知識の整理や、気になった点を調べる事前課題を行います。その後、教室にて対面でヘッドマウントディスプレイ（HMD）を装着し、事前に講義で解説したバーチャルフィールドへ行き、解説を受けながら地形や構造物などの観察を実施しました。対象地は、能登半島地震



滋賀県東近江市・猿尾の解説

の海岸隆起地形、千葉県銚子市・屏風ヶ浦、滋賀県東近江市・伝統的治水施設「猿尾」、島根県益田市など、地形・文化財・人文環境など多種多様なものとなりました。学生たちは、HMD の没入感を体感しながら、遠隔地で普段気軽に行けない場所の観察を楽しんでいました。



島根県益田市のジオラマ上で地形を観察

本研究は、文部科学省科学研究費 22K13777, 24K00171, 令和 5 年度河川情報センター研究助成, 令和 6 年新技術振興会渡邊記念会科学技術調査研究助成、東京大学空間情報科学研究センター 2025 年度研究費支援型共同研究、クリタ水環境財団国内研究助成、立命館大学 ARC-iJAC（2024 年度、D16、D34）の支援を受けて実施しました。また、HMD の使用には、株式会社キャリアリンクの支援を受けました。